

第4回庄原市長期総合計画審議会専門部会(教育民生部会) 会議録(摘録)

1. 開催日時 平成27年10月16日(金) 14:00～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁3階 防災対策室
3. 出席委員 山内 文雄 委員 ・ 毛利 昭生 委員 ・ 岡崎 輝子 委員
住田 鉄也 委員 ・ 清光 康子 委員 ・ 東 泰治 委員
明賀 誠 委員
4. 欠席委員 吉川 由基子 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫
企画課企画調整係長 加藤 武徳
企画課企画調整係 本郷 明宏
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 庄原市議会議員 五島 誠 ・ 庄原市議会議員 近藤 久子
庄原市議会議員 坂本 義明 ・ 庄原市議会議員 松浦 昇
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第4回庄原市長期総合計画審議会専門部会（教育民生部会） 次第

平成27年10月16日（金）10:00～
庄原市役所 本庁3階 防災対策室

1. 開会

1. 議事

- ・基本事項について
- ・基本構想について
- ・基本計画について

3. その他

- ・次回審議会（全体部会）開催日（予定）について
日時：平成27年11月10日（火） 14:00～
場所：庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室

4. 閉会

会議経過

(1) 開会

(2) 議事

・基本事項について

事務局：（資料により事務局説明）

委員：昨年経験したことで、他の地域から西城町内に住みたいという話があり、空き家の紹介をしたが、住宅の状況が芳しくなく、また希望する農地も有害鳥獣の被害があったこともあり、結局条件が折り合わず入らなかった。定住促進という項目が具体的に挙げられているが、各地域の実情に応じた行政からのサポートや情報提供が必要なのではないかと？他の地域でも同じなのではないかと思う。

行政間で横の連携をとり、人口減少だけを憂うのではなくて、人口を増やす施策に取り組んでもらいたい。

委員：人口減に伴う影響に関して、32,700人という目標人口を決めると、今後5,000人減っていくという認識が必要であり、例えば市税収入が現在37億円あるが、10年後にはどのくらい減る可能性があるのかを考えていく必要がある。72頁でこういうことが影響するという説明があるが、交付税等もどれ位まで減るのか、具体的な数値を示すべきではないか？確定数は出せないかもしれないが、こんな影響があるという表現が必要であるように思う。

例えば、小中学校の生徒数が激減しているが、これから少子化がもっと続けば生徒数がどの位まで減るのかを示し、そういったことを踏まえて、本当にこういった目標でいいのかどうかといった議論をする必要があると考えている。過去の数値が整理され、人口減に伴った結果はわかるが、この内容では目標人口についての議論はできないと思う。

22頁で、生活交通の問題について記載があるが、問題が伝わらない。実態として、生活交通に関しては厳しい状況が続いていることを入れてもらいたい。

25頁では、医療環境に関して、文章が課題的な表現にまとめられているのに対して、26頁の福祉環境は、課題的な表現になっていない。例えば、高齢者問題等で議論させてもらっているが、介護ニーズの増大に対する問題や、それに伴う保険料や介護経費の増加、地域包括ケアの問題など、様々課題があるため、もう少しそういった内容に触れて欲しい。

同様に、27頁の学校教育においても、少子化に伴う児童生徒数の減少やそれ

に伴う今後の学校のあり方は大きな課題だと思うので、そういったことにも触れて欲しい。

38 頁で「財政状況は一時期に比べ改善しています」とあるが、依然として、厳しい状況にあることを記載しておくべきではないか？

48 頁の中ほど、「課題」に関して、「社会環境や生活スタイルの変化などに伴い」や「高齢者世帯の抱える課題は多様化している」といった抽象的な表現が気になる。もう少し具体的な表現を入れて欲しい。例えば、自助・互助機能の低下の問題や高齢者対策でなぜ地域包括ケアが必要なのかという流れの中で、中山間地域で取り組みが必要であることの意義などがわかるような表現を盛り込んでほしい。

事務局：あくまでも総合計画なので、もっとも広い視点でまとめざるをえない。本市の姿の「医療・福祉環境」に関しては、課題的な表記としているので、指摘頂いた内容も踏まえ検討が必要なかもしれないが、ここではできるだけ、現状について述べさせて頂きたいと考えている。課題まで述べるかは検討させてほしい。

現時点での課題については、第1期計画の検証の中の「主な取り組み」「成果」「課題」で表記させてもらっている。原因をどこまで分析するのかというところもあるが、そこまで踏み込んでいない。分野ごとの詳細な内容については、個別計画等で対応していければと思う。

委員：55 頁の「生涯学習の充実」の中で、「現代的課題」という表現があるが、この表現ではよくわからない。この表現では、抽象的な計画になると危惧されるので、第1期計画の反省を踏まえた上で、実行的な計画を検討してほしい。

委員：「現代的課題」という熟語は、辞書にあるのか？意味がよくわからない。

事務局：生涯学習などの方針の中で、文言として出てくる。表現については検討する。

委員：一般市民がわかる表現が必要なのではないか？

委員：現代的課題として、庄原市では特にこのような問題があると例示してもらえたら良いと思う。

委員：「現代的課題」に関しては、以前からある問題だと思う。生涯学習を通じて、現代において起こっている課題にどのように対応していくかを検討していく必要があると思う。

委員：49 頁で、「シルバー人材センターの会員登録率」とあるが、今後、団塊の世代が出て行って、65 歳以上でスキルを持っている人がでてくると思う。そういった人を活かして、「高齢者の活躍の場づくり」といった視点から、シルバー人材センターの機能を向上させるような取り組みも検討していくべきなのではないかと思う。ニーズ調査を行ったり、発信力を強化していく必要があると思う。

事務局：基本計画の中で、「高齢者の活躍」について記載しているが、シルバー人材センターについての表現はない。記述は検討させてもらいたい。

委員：学校教育の課題に関して、54 頁で「グローバル化」とあるが、毎年、学生がオーストラリアへ研修に行っており、研修報告が行われるが、堂々とした態度がとれていない。おそらく、オーストラリアでも自分たちの国の文化を誇れていないのではないかと思う。今後、英語の授業も強化されていくようだが、むしろ日本特有の文化を、胸を張って伝えるための対策を地域ぐるみで打つ必要があるのではないかと思う。

学校と地域が一緒になって、取り組む教育が求められているという括りになっているが、その中に伝統行事が入っている。この伝統行事に子どもを巻き込むものがあるのか？もっと具体的な内容を入れられないか？

日本人として、伝統文化をしっかり体感し、学んだ上で外国にも紹介できる力を培ってほしいと思う。

事務局：グローバル化に関しては、外国の結びつきや文化を理解することだけではない。日本の文化である和の文化についても学校教育の中で、理解を進めていくということは欠かせないと思っている。指摘のあったコミュニケーション能力を高めることは、各学校で取り組んでいるが、引き続き強化を進めていくよう指導していきたい。伝統文化に関しては、子ども達が各地域のお祭り等で発表している。こういったことは今後も大切にしていかなければならない。地域の方にも協力を頂いているので、地域の人材を活かすことにも力を入れていきたい。

・基本構想について

事務局：（資料により事務局説明）

（将来像について）

委員：庄原は大都市圏ではなく、各村が生き残るための様々な知恵を持っていた。それが里山だと思う。そういうニュアンスを含め、7つの地域が一緒になって、

それぞれ生きてきた知恵を一緒にまとめてやっていく、ということから「文化都市」という表現でよいのではないかと思う。

委員：キャッチフレーズには否定的である。危機感がなくなるように思う。ただ、強いてあげるなら、「庄原・再生」というような明確な表現が良いと思う。

事務局：様々な意見をいただいたので、その結果を活かしていきたい。

(目標人口について)

委員：厳しい数値であることは承知しているが、私は以前から現状維持と言っている。目標人口の設定方針で「望む数値や望ましい数値」とあるが、達成しようとする数値（実現性のある数値）の捉え方は検討が必要だと思う。計画という面で言えば、目標は高い設定の方が良いと思う。達成できなかつたらといった心配をするのではなく、高い目標で頑張るようにすべきだと思う。そのためには、例えば、市税が今後どうなるのかといったイメージを示しながら、大変な状況だからこそ、市民一丸となって頑張っていくといった雰囲気を作り出していく必要があるのではないか？

財政の話も先程あったが、5年後の推計を見ると、平成32年に関して、市税収入が加味されていない。今後財政状況が厳しくなるということは、行政サービスも厳しくなるということで、極論として、例えば学校がいくつなくなるのかということにも繋がると思う。

事務局：目標設定の仕方は様々あると思う。人口については、全体に公表するため、共通の課題として認識してもらえないのではないかと思う。困難ではあるが、目標人口達成に向けて、市全体で頑張るという意識をもってもらえるようにしていきたい。

委員：実現可能な努力をすれば、最終的には目標が達成できるような方向にしていく必要があると思う。考え方に対しては共通の認識が必要だと思う。

委員：人口減少に対して、必ずしも各団体がこれまで頑張ってきたかといえばそうではないと思う。まだ余力はあると思うので、みんなで一丸となり、地域も巻き込んで取り組みを進めていけばいいと思う。

委員：推計人口の数値のはじき方は、どのような考え方か？人口に関して、努力目標は高い方が良く思う。

事務局：推計人口は、平成17年から平成22年までの5年間で、どれだけ人口移動があったかということ为基础に算定している。生まれる子どもの数は、平成27年以降、一定水準が保たれる様になっている。地方の人口は、国の施策によって、大きく変わる要素がある。

委員：目標値は高い方が良いと思うが、今示されている数値を目指し、一生懸命頑張ればいいのではないか？

委員：影響する指標として、出生数が挙げられているが、具体的な数値のイメージを持ちながら、市民を上げての取り組みはできないのか？

事務局：市内で独身の人が多い。そのためには、結婚支援が必要であるし、子どもを生みやすい、育てやすい環境が必要だと思う。庄原市の出生率は、県平均より高いことから、基盤はある。

委員：人口減を阻止するため、出生率を高くすることに重点が置かれているが、庄原地域から出ていかないよう、帰ってきてもらえるような取り組みに力を入れていく必要があると思う。

事務局：そのあたりの考え方については、長期ビジョンの中で描いている。長期ビジョンは、将来像を実現するための構想として整理している。

(長期ビジョンについて)

委員：子育て支援、障がい者支援にもっと力入れてもらうことが人口増に繋がるのではないかと思う。

委員：人口の設定が一番問題になると思う。

事務局：会長からも意見があり、新たに入ってくる人も対象にした概念が必要かと思うので、その点は加えることとしたい。

委員：人口減少対策は色々ある。例えば、人口減少基本計画のようなものをつくるなど、今まで欠けているところはどこなのかを整理して、10年間でどんな取り組みをするかを決めていく必要があると思う。基本事項にある中高生のアンケート結果をみると、半数が庄原に残りたい、戻りたいといっているので、希望と現実のギャップを埋めるための努力が足りないと思う。

・基本計画について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：36頁の「(4) 運動・身体活動の習慣化促進」に関連して、家庭の環境もあると思う

が、運動したいけどできない状況の子どもや運動嫌いの子どもに身体活動の楽しさを伝え、底辺を広げる活動があればいいと思う。

48 頁の目標指数に総合型地域スポーツクラブの設立数があるが、中学校区の範囲を「地域」とするという考えであり、これを設立した趣旨は、1つは、高齢者が引きこもらないで、家から出て身体活動をし、人との絆を深め、精神的な安定を図るということ、もう1つは、土曜日に学校がなくなったので、土曜日を中心に、特にクラブ活動やスポーツ少年団等の活動をしていない子どもに身体活動をさせることである。アンケートを実施するなどして、種目を選ばせたりもしたが、10年目の現在でも学生の活動になっておらず、ほとんどが中高年者となっている。児童生徒にもう少し、スポーツクラブに入ってもらいたいと考えている。身体的活動の楽しさを伝えるためには指導者の育成も大切である。

委員：子供たちの出生数や人口が増加するために必要なことは、具体的に庄原市で生活する市民が安心安全に生活でき、安心して子供を産むことができ、さらには育っていくことができる環境を構築することである。合併特例債がいつ切れて、具体的にどの程度減るのかを、財政状況の中で明記してほしい。そうすれば、新しい長期計画を策定した際に、多くの市民が要求内容を考えることができると思う。財政について、市民に周知する手段が必要ではないかと思う。

高齢者の自立支援という考えの地域包括ケアシステムの確立とあるが、若者や医療も含め、総合的に整理できる一つの考え方ではないかと思う。その典型が西城地域にあり、住民の健康づくり、健康診断、スポーツ活動等の問題を含めた、各部署の総合的な連絡システムを具体的に進めている。各地域の実態に応じて、各保健センターや社会福祉協議会が総合的に統制していくことにより、生まれてから死ぬまでの地域包括ケアシステムが確立できるのではないかと思う。

27 頁の家庭の教育力の向上は、社会教育の中で大きな課題であるが、各自治振興センターで課題を明確にし、それに対する具体的な講座を設定するといった、地域課題を解決していくための生涯学習活動が必要だと思う。市長が「庄原いちばん」という施策を打ち出したが、地域内にそうした取り組みをする人材がいないと動かない。自治振興センターの生涯学習の中で、地域課題を解決できるような学習活動と、併せて学習内容を住民が活かしていけるようなシステムが必要だと思う。

委員：地域包括ケアシステムに関しては、庄原市も平成 29 年から新しい地域支援事業をスタートさせるため、住民が主体となり多様なサービスを提供できるような支えあいの体制づくりに取り組む必要がある。基本計画の中に入れて実施計画につなげていく必要があると思う。

スポーツの振興については、基本計画に市民 1 スポーツを掲げ、それをキャッチフレーズに市民の健康づくりを進めると良いと思う。

事務局：表現については、検討したい。

委員：以前より市民1スポーツを掲げ、週に何日以上身体活動をすることを目標としており、その集大成がスポーツフェスティバルである。女性会や老人会、青年会等の様々な所に働きかけ、また参加できる種目を検討するなどして盛り上げてほしい。

委員：埋蔵文化財は発掘して資料にするだけでなく、地域のまちづくりにおいて具体的に活用していくシステムが必要だと思う。そうすれば、交流人口を増やすこともできるのではないかと思う。

生涯学習については、社会教育の振興のため、ぜひ各自治振興センターに社会教育主事を置いてほしい。

委員：目標指標の設定について、達成状況と現状とにギャップがあると思う。目標指数が適正かどうか全体的に気になる。

30頁の「元気な高齢者の割合」について、現状値から、100で引くと約25%で、今回は22%以下を目標としているが、現行計画ではおそらく21%以下であり、現状値が上がってきているなか、目標達成するどころではないのではないかな？

37頁の国民健康保険一人当たりの医療費についても、現状以下にすることを目標としているが、増え続けている状況にある。そういった面をしっかりと意識した上で、今後、適正な指標を上げることと、さらなる努力をしていかないと、なかなか現状は良くならないと思う。

事務局：現状維持も大変であり、さらに現状以下にすることは非常に難しく、数字で表すことは難しいが今後検討したい。

委員：38頁の医療体制の充実において、定住者を迎える視点として、安心安全な生活で挙げられている6項目は、ぜひ実現してもらいたい。出生数の増加のためには、近くで安心して産めることが必要であるため、産科医療は必ず必要だと思う。

委員：39頁の学校教育の充実について、これに必要な教育環境づくりのための予算が必要である。これから庄原市を発展させるためには、教育が中心でなくてはならない。5年、10年先を見通すことが必要である。将来展望的に考えると、人づくりである教育に対する予算を削減するべきではない。41頁の教員の資質向上についても同様である。教員が変われば子供も変わる。保護者は学力の向上を一番に求めている。生活指導は家庭教育中心とし、学校教育においては、教員が安心して教科指導ができる環境づくりに対してバックアップしてほしい。

事務局：予算については、教育委員会から要求していただく。学校のハード面事業が終了すると一定のパーセンテージがつく状況である。同時進行で教育振興計画を作成しており、総合計画の中から具体性を持った教育に関する計画を作り上げるので、その中で事業を

検討していきたいと思う。

(3) その他

- ・次回審議会(全体部会)開催日(予定)について
日時：平成27年11月10日(火) 14:00～
場所：庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室

(4) 閉会